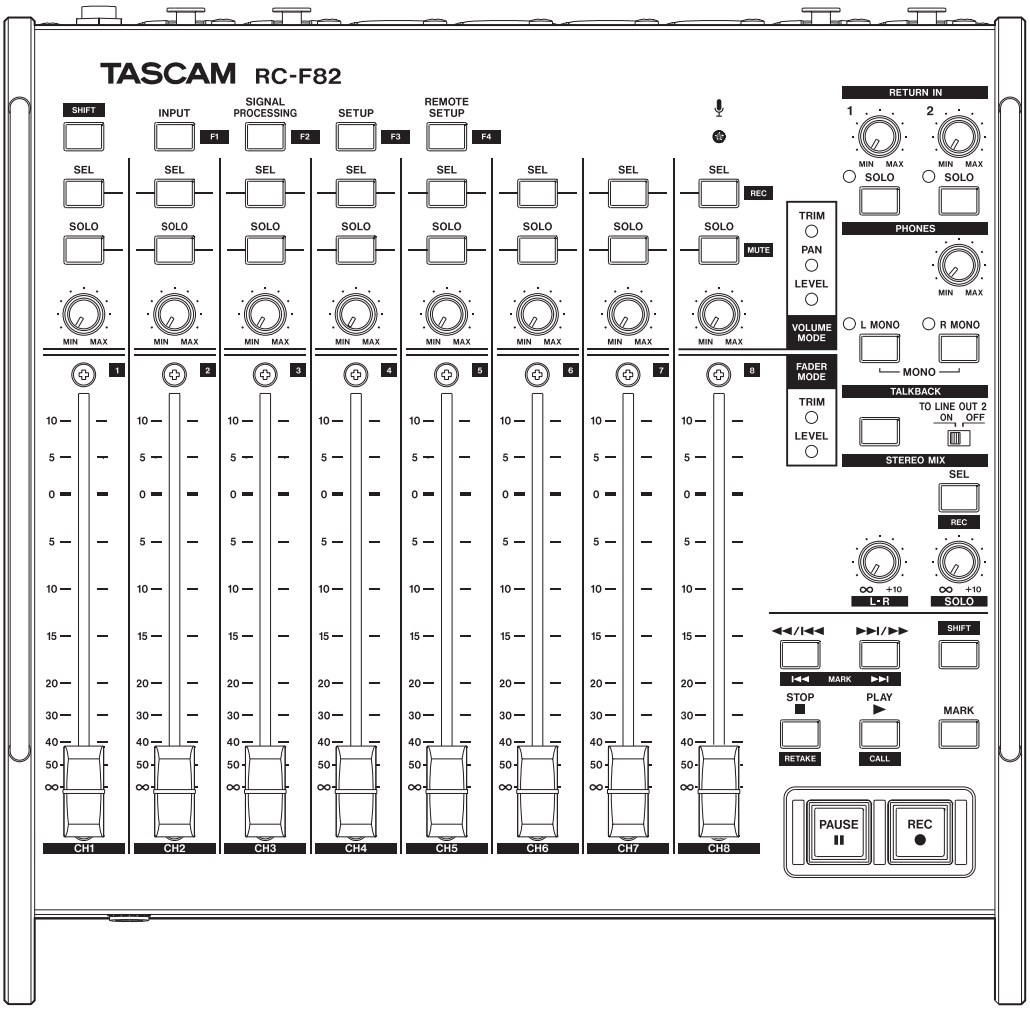
TASCAM

D01132401A

RC-F82

Fader Unit

取扱説明書



目次

第1章　はじめに 3
本機の概要 3
本製品の構成 3
本書の表記 3
商標に関して 3
設置上の注意 4
結露について 4
製品のお手入れ 4
アフターサービス 4

第2章　各部の名称と働き 5
トップパネル 5
リアパネル 8
フロントパネル 8
左サイドパネル 9

第3章　準備 10
HS-P82と接続する 10
他の機器と接続する 10
コミュニケーション機能を使うとき 10

第4章　ミキサーコントロール機能 11
VOLUMEつまみ 11
フェーダー 12
モニター 12
ショートカットキー 12
ダイレクトアクセスキー 13
ファンクションキー 13

第5章　トランスポートコントロール機能 14
録音する 14
再生する 14
マークをつける 14

第6章　コニュニケーション機能 15
マイクで話す（TALKBACK） 15
音声を聞く（RETURN IN） 15
ヘッドホン出力の設定（PHONES） 15

第7章　仕様 16
定格 16
入力定格 16
　アナログ入力 16
出力定格 16
　アナログ入力 16
コントロール入出力定格 16
一般 16
寸法図 17
ブロックダイヤグラム 18

このたびは、TASCAM Fader Unit RC-F82をお買いあげいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（**http://www.tascam.jp/**）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- HS-P82本体の各チャンネルのレベル、マイクトリムのコントロール用の防塵型100mmスライドフェーダーを8個装備
- HS-P82本体の各チャンネルのマイクトリム、パン、レベルのコントロール用のロータリーボリュームを8個装備
- ステレオミックス用にもロータリーボリュームを２個装備（マスターレベルおよびソロレベル用）
- ソロ選択およびRECミュート切り換えの専用キーを8個装備
- チャンネル設定画面呼び出しおよびレコードファンクション切り換えの専用キーを8個装備
- ステレオミックス用にもチャンネル設定画面呼び出しおよびレコードファンクション切り換えの専用キーを装備
- MIXER SETUP画面、REMOTE SETUP画面を直接表示できる4つのダイレクトアクセス（ショートカット）ボタンを装備
- トランスポートコントロール機能
- XLRバランスLINE IN端子（STEREO）装備
- XLRバランスLINE OUT1 & 2端子（STEREO x 2）装備
- フィールドレコーディング環境で便利なコミュニケーション機能搭載
- コミュニケーション機能用XLRバランスRETURN IN端子装備（レベル調節、ソロ制御機能付）
- RETURN信号をヘッドホンで聞くことが可能
- コミュニケーション機能用に内蔵マイクを搭載し、その音声をLINE OUT 2端子から出力可能
- レベルつまみ付きモニター用ヘッドホン端子を搭載
- ヘッドホンモニターは、STEREO、MONO、L MONO、R MONOを選択可能
- HS-P82の上に載せられるように幅と奥行きをHS-P82本体と同じ寸法に設計
- HS-P82本体とPS/2で接続（電源もPS/2から供給されます）
- PS/2の外付けキーボードを接続可能

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- 接続ケーブル（PS/2ケーブル　1.2m）　x1
- 保証書　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のキー／端子などを「**MARK**キー」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を**“ON”**のように“_”で括って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

設置上の注意

- 本製品の動作保証温度は、摂氏0度～40度です。
- 次のような場所に設置しないてください。音質悪化の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所。
  窓際などの直射日光が当たる場所。
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所。
  極端に温度が低い場所。
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
  ホコリの多い場所。
  直接雨などの水が当たる場所。

- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本製品を置かないでください。
- 本製品の上にものを置かないでください。故障の原因となります。

結露について

本製品を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

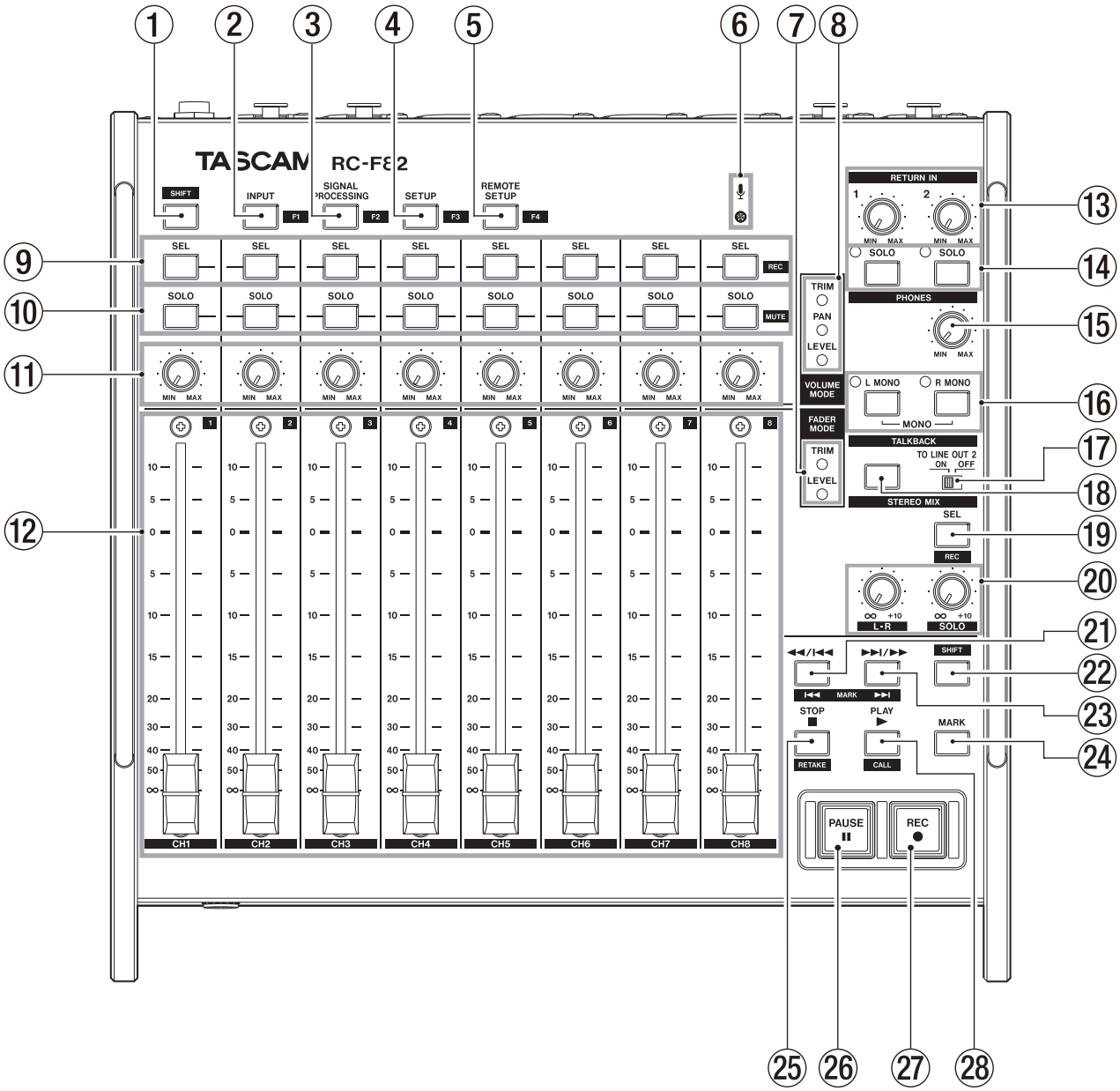
製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を痛めたり色落ちさせる原因となります。

アフターサービス

- この製品には、保証書を別途添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししてますので、大切に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細につきましては、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客さまのご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  - 型名、型番（RC-F82）
  - 製造番号（Serial No.）
  - 故障の症状（できるだけ詳しく）
  - お買い上げ年月日
  - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先につきましては、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

トップパネル



① SHIFTキー

このキーは、パソコンのSHIFTキーと同じような働きをします。青色で印刷されたキーに対して有効です。

このキーは、本機の左上と右下の2箇所に存在しますが同じ機能です。

② INPUT [F1] キー

このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“MIXER SETUP”画面の“INPUT”タブ画面を表示します。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F1] キーとして動作します。ファンクションキーの設定は、HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面で行います。

.

③ SIGNAL PROCESSING [F2] キー

このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“MIXER SETUP”画面の“SIGNAL PROCESSING”タブ画面を表示します。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F2] キーとして動作します。ファンクションキーの設定は、HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面で行います。

④ SETUP [F3] キー

このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“MIXER SETUP”画面の“SETUP”タブ画面を表示します。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F3] キーとして動作します。ファンクションキーの設定は、HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面で行います。

⑤ REMOTE SETUP [F4] キー

このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面を表示します。SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F4] キーとして動作します。ファンクションキーの設定は、HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面で行います。

⑥ 内蔵マイク

コミュニケーション機能のトークバックに使用するマイクです。TALKBACKキーを押すと、このマイクが有効になります。また、LINE OUT 2/TALKBACK端子に出力するためには、TO LINE OUT 2スイッチがONになっている必要があります。

⑦ FADER MODEインジケーター（TRIM、LEVEL）

現在フェーダーに割り当てられている機能を表示します。TRIM（マイク入力レベル）、LEVEL（ステレオバスに送るレベル）の2つのインジケーターがあります。

⑧ VOLUME MODEインジケーター（TRIM、PAN、LEVEL）

現在VOLUMEつまみに割り当てられている機能を表示します。TRIM（マイク入力レベル）、PAN（ステレオバスに送る定位）、LEVEL（ステレオバスに送るレベル）の3つのインジケーターがあります。

⑨ SEL [REC] キー（CH1～CH8）

これらのキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに押したチャンネルのチャンネル設定画面（チャンネル設定画面の“CHx SETUP”タブ画面）を表示します。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、そのチャンネルのレコードファンクションのオン／オフを切り換えます。

⑩ SOLO [MUTE] キー（CH1～CH8）

これらのキーを押すと、そのチャンネルのソロ機能のオン／オフを切り換えます。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、そのチャンネルのRECミュート機能のオン／オフを切り換えます。

⑪ VOLUMEつまみ（CH1～CH8）

これらのつまみを使うと、そのチャンネルのマイク入力レベル（TRIM）、ステレオバスに送る定位（PAN）またはステレオバスに送るレベル（LEVEL）の調節ができます。

これらつまみにどの機能を割り当てるかは、HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面の“VOLUME FADER MODE”項目で選択します。

現在の割り当ては、VOLUME MODEインジケーターで確認ができます。

注意

同一の調節機能が本機とHS-P82本体の双方に存在します。
常時操作を行った方の調節が反映されます。
したがって、HS-P82本体にて調節を行った場合は、本機での調節と相違が生じます。

⑫ チャンネルフェーダー（CH1～CH8）

これらのフェーダーを使って、そのチャンネルのマイク入力（TRIM）またはステレオバスに送るレベル（LEVEL）を調節します。

これらフェーダーにどの機能を割り当てるかは、HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面の“VOLUME FADER MODE”項目で選択します。

現在の割り当ては、FADER MODEインジケーターで確認ができます。

注意

同一の調節機能が本機とHS-P82本体の双方に存在します。
常時操作を行った方の調節が反映されます。
したがって、HS-P82本体にて調節を行った場合は、本機での調節と相違が生じます。

⑬ RETURN INつまみ

左側のつまみ（1）でRETURN IN 1端子からの入力、右側のつまみ（2）でRETURN IN 2端子からの入力のレベルを調節します。

⑭ RETURN IN SOLOキー／インジケーター（2個）

左側のキーを押すとRETURN IN 1端子の、右側のキーを押すとRETURN IN 2端子の入力信号のソロ機能をオン／オフします。

オンのときは、左上のインジケーターが点灯します。

⑮ PHONESつまみ

このつまみを使うとPHONES端子から出力される音量を調節します。L／Rチャンネル同時に調節されます。

注意

ヘッドホンを接続する前にはPHONESつまみをMINにし、音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

⑯ L/R MONOキー／インジケーター

このキーを押すと、PHONES端子の出力のL／Rチャンネルに対するモノ機能をオン／オフします。

L MONOキーはLチャンネル、R MONOキーはRチャンネルのモノ機能をオン／オフします。オンのとき左上のインジケーターが点灯します。

⑰ TO LINE OUT 2スイッチ（TALKBACK）

このスイッチをONにしたときは、LINE OUT 2/TALKBACK端子からトークバック信号が出力されます。OFFにしたときはLINE IN端子の信号が出力されます。

⑱ TALKBACKキー

このキーを押すと、コミュニケーション機能のトークバック用内蔵マイクが有効になります。

TO LINE OUT 2スイッチがオンになっているとき、内蔵マイクの音声を、LINE OUT 2/TALKBACK端子から出力します。

⑲ SEL [REC] キー（STEREO MIX）

このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーにステレオチャンネル設定画面（チャンネル設定画面の“L/R SETUP”タブ画面）を表示します。

SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、“LR 2MIX”のレコードファンクションのオン／オフを切り換えます。

⑳ STEREO MIXつまみ（L-R、SOLO）

このつまみを使うとステレオミックスのマスターレベルを調節します。

L-Rつまみ：

L ／ R両チャンネルのマスターレベルを同時に調節します。

SOLOつまみ：

ソロレベルが調節されます。

注意

同一の調節機能が本機とHS-P82本体の双方に存在します。
常時操作を行った方の調節が反映されます。
したがって、HS-P82本体にて調節を行った場合は、本機での調節と相違が生じます。

㉑ ◄◄/I◄◄ [MARK I◄◄] キー

停止中／再生待機中／再生中に

- 短く押すと、現在のテイク（ファイル）の先頭または前のファイルにスキップし、テイク（ファイル）の先頭で停止／再生待機、またはファイルの先頭から再生を開始します。
- 長く押すと、押している間早戻しサーチを行います。
- SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、一つ手前のマークポイントに移動し、停止／再生待機、または再生を開始します。

HS-P82本体の◄◄ [I◄◄] キーと同じ動作をします。

㉒ SHIFTキー

このキーは、パソコンのSHIFTキーと同じような働きをします。
青色で印刷されたキーに対して有効です。
このキーは、本機の左上と右下の2箇所に存在しますが同じ機能です。

㉓ ►► / ►►I [MARK ►►I] キー

停止中／再生待機中／再生中に

- 次のテイク（ファイル）にスキップし、テイク（ファイル）の先頭で停止／再生待機、またはファイルの先頭から再生を開始します。
- 長く押すと、押している間早送りサーチを行います。
- SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、一つ先のマークポイントに移動し、停止／再生待機、または再生を開始します。

HS-P82本体の►► [►►I] キーと同じ動作をします。

㉔ MARKキー

このキーを押すと、その時刻にマークを付けます。
マークポイントは、オートマークポイントと合わせて1ファイル（テイク）あたり、最大99個まで付けることができます。
HS-P82本体のMARKキーと同じ動作をします。

㉕ STOP [RETAKE] キー

録音中または再生中にこのキーを押すと、録音または再生を停止します。
SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、リテイク（最後に録音したテイクを削除する）を実行します。
録音中にこのキーを押すと、録音を停止し、最後に録音を開始したファイルの先頭で停止状態になります。
HS-P82本体のSTOP [RETAKE] キーと同じ動作をします。

㉖ PAUSEキー／インジケーター

再生中にこのキーを押すと、再生待機になり、キーが点灯します。
録音中にこのキーを押すと、録音待機になり、キーが点灯します。
停止中にこのキーを押すと、録音待機になり、キーが点灯します。
HS-P82本体のPAUSEキーと同じ動作をします。

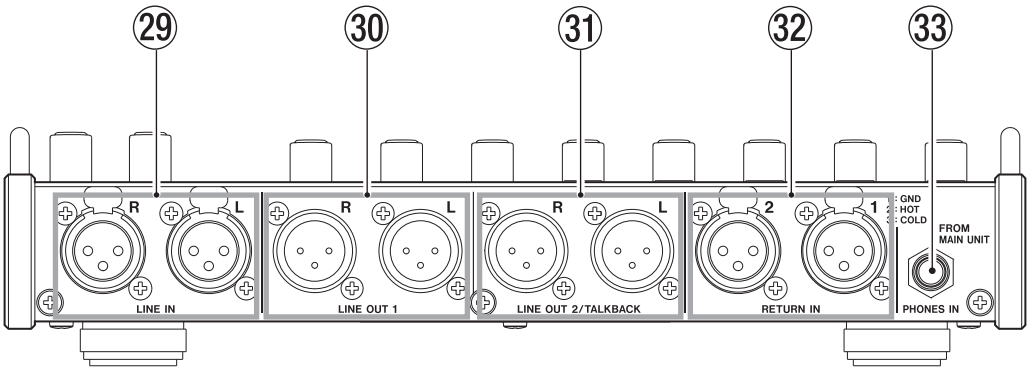
㉗ RECキー／インジケーター

録音可能なCFカードがセットされていて、停止しているときにこのキーを押すと、新しいファイルへの録音を開始し、キーが点灯します。
録音待機しているときにこのキーを押すと、新たなファイルまたは現在のファイルへの録音を再開し、キーが点灯します。
録音中にこのキーを押すと、録音は継続したままですが、現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルへの録音を開始します。
HS-P82本体のRECキーと同じ動作をします。

㉘ PLAY [CALL] キー

停止／再生待機中にこのキーを押すと、再生を開始します。
SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、コール（最後に再生待機状態から再生を開始したポイントにロケートする）を実行します。
録音待機中にこのキーを押すと、録音を開始します。
HS-P82本体のPLAY [CALL] キーと同じ動作をします。（インジケーターを除く）

リアパネル



㉙ LINE IN端子（L ／ R）

アナログ入力端子（XLRバランス）です（1:GND、2:HOT、3:COLD）。

HS-P82本体のLINE OUT端子と接続します。

㉚ LINE OUT 1端子（L ／ R）

アナログ出力端子（XLRバランス）です（1:GND、2:HOT、3:COLD）。

LINE IN端子（L ／ R）に入力された信号をスルーで出力します。

㉛ LINE OUT 2/TALKBACK端子（L ／ R）

アナログ出力端子（XLRバランス）です（1:GND、2:HOT、3:COLD）。

TO LINE OUT 2スイッチの選択により、LINE IN端子に入力された信号をこの端子にスルーで出力するか（OFF時）、またはトークバック信号（ON時）をこの端子に出力します。

㉜ RETURN IN端子（1 ／ 2）

アナログ入力端子（XLRバランス）です（1:GND、2:HOT、3:COLD）。

コミュニケーション用の音声信号の入力に使用します。

この端子の入力信号は、PHONE IN端子に入力した信号とアナログミックスされてPHONES端子より出力されます。

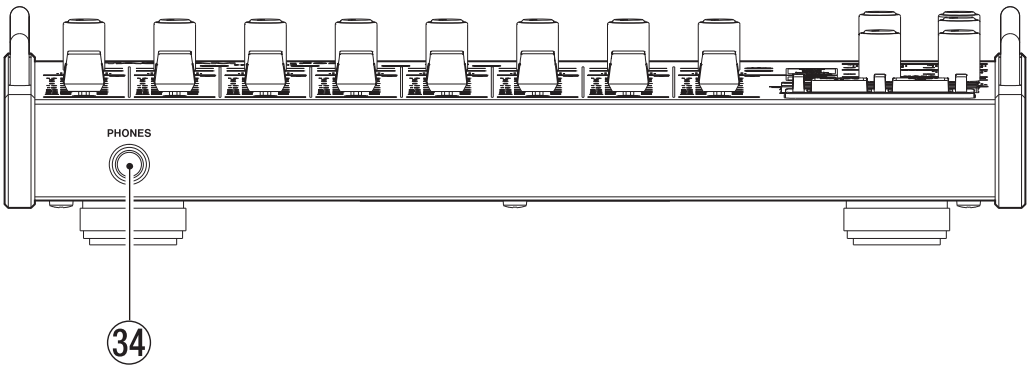
㉝ PHONES IN端子

アナログ入力端子（ステレオ標準ホンジャック）です。

HS-P82本体のPHONES端子と接続します。

この端子に入力した信号は、RETURN IN端子の入力信号とアナログミックスされてPHONES端子より出力されます。

フロントパネル



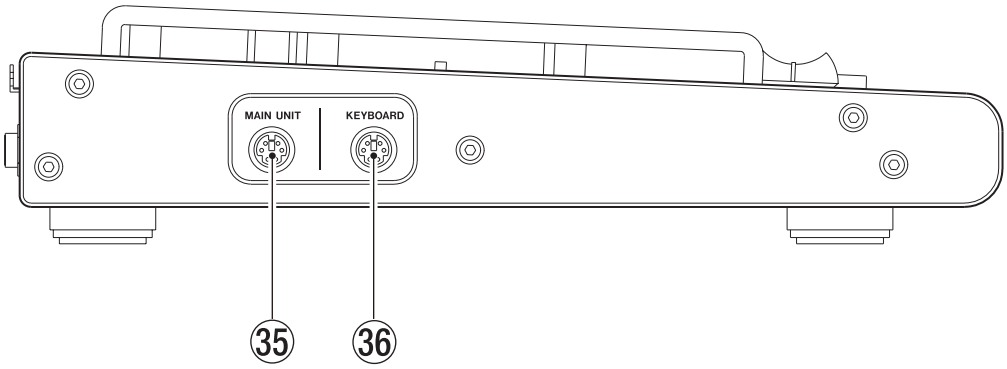
㉞ PHONES端子

ヘッドホンを接続するためのステレオ標準ホンジャックです。トップパネルにあるPHONESつまみでヘッドホン出力レベルを調節します。

注意

ヘッドホンを接続する前には、PHONESつまみで音量を最小にしてください。突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

左サイドパネル



㉟ MAIN UNIT端子

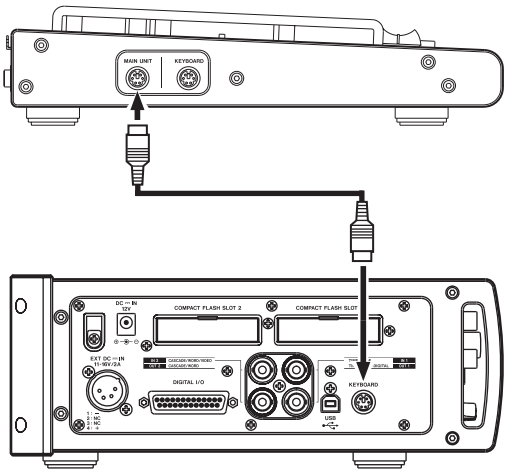
付属の本体接続用ケーブルでHS-P82本体のKEYBOARD端子と接続します。

㊱ KEYBOARD端子

IBM PC互換機用、PS/2インターフェースのキーボードを接続します。

HS-P82と接続する

本機の左サイドパネルにあるMAIN UNIT端子とHS-P82本体のKEYBOARD端子を付属のケーブルで接続します。
また、PS/2キーボードを使用する場合には、本機のKEYBOARD端子にPS/2キーボードを接続してください。HS-P82本体の外付けキーボードとして使用することができます。



注意

- 接続ケーブルの抜き差しは、HS-P82本体の電源を切った状態で行ってください。電源を入れたまま抜き差しをすると、故障の原因となります。
- 消費電力の大きいPS/2キーボードを使用すると、正常に動作しない場合があります。

他の機器と接続する

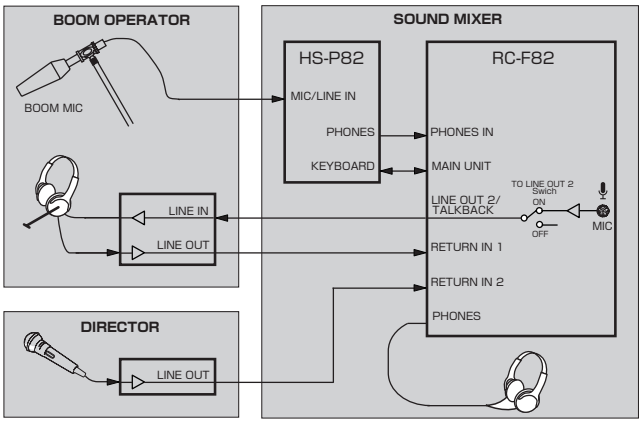
HS-P82本体のLINE OUT端子を本機のLINE IN端子と接続すると、本機のLINE OUT 1端子とLINE OUT 2/TALKBACK端子の両方に分配して出力ができます。
HS-P82本体からは一台にしかライン出力を接続できませんでしたが、本機を通して2台に出力することが可能になります。

注意

TO LINE OUT 2スイッチをONにしていると、LINE OUT 2/TALKBACK端子からはHS-P82本体からのライン出力信号は出力されません。ライン出力信号を出力したいときには、スイッチをOFFにしてください。

コミュニケーション機能を使うとき

HS-P82本体のフロントパネルのPHONES端子を本機のPHONES IN端子と接続し、RETURN IN端子にコミュニケーションをとりたい相手の機器の出力を接続することで、本機のPHONES端子につないだヘッドホンで、これらをアナログミックスしたものを聞くことができます。
本機のLINE OUT 2/TALKBACK端子にコミュニケーションをとりたい相手の機器の入力をつなぐと、本機の内蔵マイクを使って音声を相手の機器に出力することができます。



[コミュニケーション機能の接続例]

使い方の詳細は、第6章「コミュニケーション機能」（15ページ）を参照してください。

本機には、8チャンネル分のロータリーボリュームとスライドフェーダーが装備されています。
VOLUMEつまみには、マイク入力（**TRIM**）、ステレオバスに送る定位（**PAN**）、ステレオバスに送るレベル（**LEVEL**）の３つのうちのどれかの機能を、割り当てることができます。
フェーダーには、マイク入力（**TRIM**）またはステレオバスに送るレベル（**LEVEL**）のどちらかを割り当てることができます。
設定は、HS-P82本体の**“RC-F82”**タブ画面の**“Volume Fader Mode”**項目で行います。
ただし、**VOLUME**つまみとフェーダーに同じ機能を選択することはできません。
HS-P82本体の**“RC-F82”**タブ画面を表示するには、本機の**REMOTE SETUP [F4]**キーを押すか、以下の手順を行います。

1. HS-P82本体の**MENU**キーを押して、メニュー画面を表示します。
2. **“REMOTE SETUP”**ボタンを押して、**“REMOTE SETUP”**画面を表示します。
3. **“RC-F82”**タブを押します。

“Volume Fader Mode”項目に表示されているボタンを選択します。ボタン内の上側が**VOLUME**つまみ、下側がフェーダーに割り当てられる設定です。

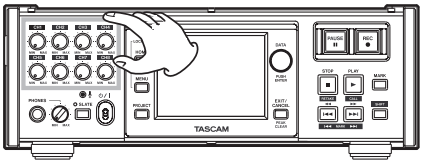
ボタン内表示	内容
TRIM	マイク入力
PAN	ステレオバスに送る定位
LEVEL	ステレオバスに送るレベル

VOLUMEつまみ

VOLUMEつまみの機能は、次の3つから選択できます。
現在の設定は、**VOLUME MODE**インジケーターで確認することができます。

TRIM（マイク入力）

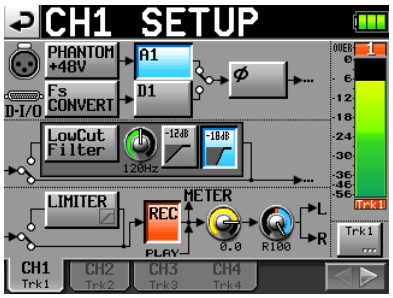
マイクの入力レベルを調節することができます。
HS-P82本体のレベルメーター下のチャンネル名表示部にゲイン表示値がしばらくの間表示されます。
HS-P82本体のフロントパネルのインプットトリムと同じ動作をします。



PAN（ステレオバスに送る定位）

ステレオバスに送る定位を左右に振り分けることができます。左いっぱいに回すとすべてLチャンネル、右いっぱいに回すとすべてRチャンネル、真ん中にするとL／Rの両チャンネル均等に振り分けます。
HS-P82本体のホーム画面の**“PAN/LVL”**ボタンを押して表示される**“PAN/LVL”**プルアップ表示、もしくは**“CHx SETUP”**画面（チャンネル設定画面、**“x”**はチャンネルを表す）の**“PAN”**つまみと同じ動作をします。

[ホーム画面、PAN/LVLプルアップ表示]



[チャンネル設定画面]

LEVEL（ステレオバスに送るレベル）

ステレオバスに送るレベルを調節できます。
HS-P82本体のホーム画面の**“PAN/LVL”**ボタンを押して表示される**“PAN/LVL”**プルアップ表示、もしくは**“CHx SETUP”**画面（チャンネル設定画面、**“x”**はチャンネルを表す）の**“2Mix LVL”**つまみと同じ動作をします。左いっぱいにすると−∞、右いっぱいにすると+10dBになり、この範囲内で調節できます。

注意

同一の調節機能が本機とHS-P82本体の双方に存在します。
常時操作を行った方の調節が反映されます。
したがって、HS-P82本体にて調節を行った場合は、本機での調節と相違が生じます。

フェーダー

フェーダーの機能は、次の2つから選択できます。
現在の設定は、**FADER MODE**インジケーターで確認することができます。

TRIM（マイク入力）

HS-P82本体のフロントパネルのインプットトリムと同じ動作をします。
マイクの入力レベルを調節することができます。
レベルメーター下のチャンネル名表示部にゲイン表示値がしばらくの間表示されます。

注意

TRIMの場合には、フェーダー目盛りとは一致しません。

LEVEL（ステレオバスに送るレベル）

HS-P82本体のホーム画面の**“PAN/LVL”**ボタンを押して表示される**“PAN/LVL”**プルアップ表示、もしくは**“CHx SETUP”**画面（チャンネル設定画面、**“x”**はチャンネルを表す）の**“2Mix LVL”**つまみと同じ動作をします。
ステレオバスに送るレベルを－∞から+10dBの範囲で調節できます。

注意

同一の調節機能が本機とHS-P82本体の双方に存在します。
常時操作を行った方の調節が反映されます。
したがって、HS-P82本体にて調節を行った場合は、本機での調節と相違が生じます。

モニター

HS-P82本体の**PHONES**端子と同様に、本機の**PHONES**端子にヘッドホンをつないぐことで、**VOLUME**つまみやフェーダーを使ってミキシングした信号をモニターすることができます。

ヒント

- 本機の**PHONES**端子には、コミュニケーション機能の**RETURN IN 1**端子および**RETURN IN 2**端子からの信号も常に出力されます。
  モニターだけに使用する場合は、**RETURN IN 1**つまみおよび**RETURN IN 2**つまみを**MIN**にしてください。
- **RETURN IN SOLO**キー（**1**／**2**）のいずれかがオン（インジケーター点灯）になっている場合は、**PHONES IN**端子からの入力を20dB減衰させるため、モニター音声が小さくなります。
  モニターだけに使用する場合は、これらのキーを両方ともオフ（インジケーター消灯）にしてください。
  これらの詳細については、「音声を聞く（RETURN IN）」（15ページ）を参照してください。

ショートカットキー

各チャンネルと**STEREO MIX**に**SEL [REC]** キーが、各チャンネルに**SOLO [MUTE]** キーが各々用意されており、以下のショートカットキーとして使用できます。

SEL [REC] キー

これらのキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに押したチャンネルのチャンネル設定画面（**“CHx SETUP”**画面）を表示します。
SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、そのチャンネルのレコードファンクションのオン／オフを切り換えます。

SOLO [MUTE] キー

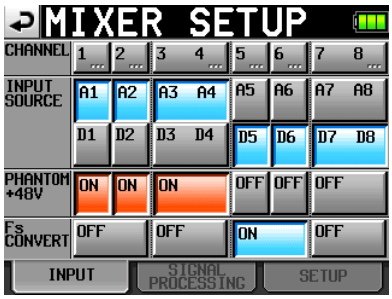
これらのキーを押すと、そのチャンネルのソロ機能のオン／オフを切り換えます。
SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、そのチャンネルのRECミュート機能のオン／オフを切り換えます。
RECミュート機能がオンの場合は、録音レベルが－∞になります。
レコードファンクションがオンの場合、無音として録音されます。
ステレオバスにも送るレベルも－∞になります。

ダイレクトアクセスキー

これらのキーを使って、HS-P82本体の“MIXER SETUP”画面の各タブ画面と、HS-P82本体で本機の設定を行う際に使用する“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面をダイレクトに呼び出すことができます。また、SHIFTキーを押しながらこれらのキーを押したときの動作を設定し、お好みの画面をダイレクトに呼び出せるようにすることができます。

INPUT [F1] キー

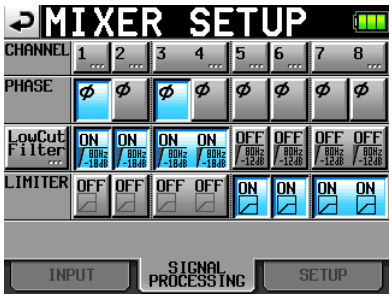
このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“MIXER SETUP”画面の“INPUT”タブ画面を表示します。



SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F1] キーとして動作します。

SIGNAL PROCESSING [F2] キー

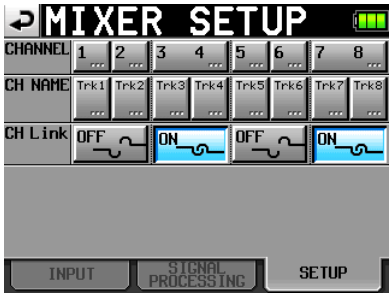
このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“MIXER SETUP”画面の“SIGNAL PROCESSING”タブ画面を表示します。



SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F2] キーとして動作します。

SETUP [F3] キー

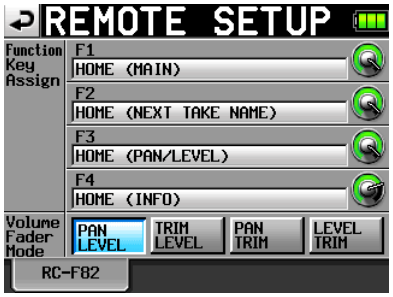
このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“MIXER SETUP”画面の“SETUP”タブ画面を表示します。



SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F3] キーとして動作します。

REMOTE SETUP [F4] キー

このキーを押すと、HS-P82本体のカラーディスプレーに“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面を表示します。



SHIFTキーを押しながらこのキーを押すと、ファンクションキーの [F4] キーとして動作します。

ファンクションキー

ファンクション [F1] ～ [F4] キー各々に対して HS-P82本体の画面呼び出しやダイレクトファンクションの機能をショートカットキーとして設定できます。
HS-P82本体の“REMOTE SETUP”画面の“RC-F82”タブ画面の“Function Key Assign”の項目で選択し設定します。
設定できる項目は、以下の通りです。

設定	機能
HOME（MAIN）	ホーム画面を表示
HOME（NEXT TAKE NAME）	ホーム画面の“NEXT TAKE NAME”プルアップ画面を表示
HOME（PAN/LEVEL）	ホーム画面の“PAN/LEVEL”プルアップ画面を表示
HOME（INFO）	ホーム画面の“INFO”プルアップ画面を表示
MARK LIST	“MARK LIST”画面を表示
BATTERY	“BATTERY”画面を表示
REC（OPTIONS）	“REC SETUP”画面の“OPTIONS”タブ画面を表示
SYNC（CLOCK）	“SYNC T/C”画面の“CLOCK”タブ画面を表示
SYNC（TIMECODE）	“SYNC T/C”画面の“TIME CODE”タブ画面を表示
MIXER（LowCutFilter）	ミキサー設定用の“LOW CUT FILTER”画面を表示
SYSTEM（ALARM TONE）	“SYSTEM SETUP”画面の“ALARM TONE”タブ画面を表示
SLATE（MIC）	キーを押している間、HS-P82本体のスレートマイクの信号を録音対象トラックに入力
SLATE（TONE）	キーを押している間、スレートトーン（内蔵オシレーター）信号を、録音対象トラックに入力

第５章　トランスポートコントロール機能

本機には、HS-P82本体と同等の動作をするトランスポートキーが装備されており、録音再生、早送り早戻しなどがコントロールできます。

録音する

RECキーを押すと、録音を開始します。
録音中に**REC**キーを押すと、録音は継続したままですが、現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルへの録音を開始します。
録音を終了するには、**STOP [RETAKE]** キーを押します。
SHIFTキーを押しながら**STOP [RETAKE]** キーを押すと、最終テイクの削除を行います。（リテイク機能）

再生する

HS-P82本体で再生したいテイクが含まれているシーンを選択します。
HS-P82本体で再生したいテイクを選択します。
PLAY [CALL] キーを押すと、そのテイクが再生されます。
停止するには、**STOP [RETAKE]** キーを押します。
一時停止したい場合には、**PAUSE**キーを押します。このとき、**PAUSE**キーは点灯します。
一時停止を解除するには、**PLAY [CALL]** キーを押します。
I◄◄ ／ ►►I キーを短く押すと、テイクを切り換えます。
I◄◄ ／ ►►I キーを長く押すと、早戻し／早送り再生をします。
SHIFTキーを押しながらこの**PLAY [CALL]** キーを押すと、最後に再生待機状態から再生を開始したポイントにロケート（コール機能）します。

メモ

トランスポートキーは、HS-P82本体のキーと同様の動作を行います。詳細は、HS-P82本体の取扱説明書 第4章「録音と再生」を参照してください。

マークをつける

MARKキーを押すと、その時刻にマークを付けます。
マークポイントは、オートマークポイントと合わせて1ファイル（テイク）あたり、最大99個まで付けることができます。

メモ

MARKキーは、HS-P82本体のキーと同様の動作を行います。詳細は、HS-P82本体の取扱説明書 第7章「マーク機能トロケート機能」のマーク機能の項目を参照してください。

内蔵マイクとPHONES端子につないだヘッドホンを使って、音声でコミュニケーションをとることができます。
コミュニケーションをとりたい相手の機器に、本機のLINE OUT 2/TALKBACK端子からの信号を入力し、相手の出力をRETURN IN 1端子またはRETURN IN 2端子に接続します。

マイクで話す（TALKBACK）

内蔵マイクの音声をLINE OUT 2/TALKBACK端子に出力することができます。

1. TO LINE OUT 2スイッチをONにします。
2. TALKBACKキーを押しながら、内蔵マイクに向かって話をします。
3. LINE OUT 2/TALKBACK端子に接続した機器から本機の内蔵マイクに入力した音声が出力されます。

音声を聞く（RETURN IN）

RETURN IN 1端子またはRETURN IN 2端子に接続した機器からの音声とPHONE IN端子からの入力信号がミックスされます。したがって、録音音声をモニターしながら、コミュニケーション音声を聞くことができます。
RETURN IN 1端子の入力信号はRETURN IN 1つまみで、RETURN IN 2端子の入力信号はRETURN IN 2つまみで別々に調節できます。また、それぞれにSOLOキーがあり、オンにするとPHONES IN端子からの入力信号を20dB減衰させたものと各RETUEN IN端子の入力信号をアナログミックスします。

		SOLO 1	
		OFF	ON
SOLO 2	OFF	R1+R2+P	R1+P'
	ON	R2+P'	R1+R2+P'

R1　：RETURN IN 1入力信号
R2　：RETURN IN 2入力信号
P　：PHONES IN入力信号
P'　：PHONES IN入力信号を20dB減衰させた信号

ヘッドホン出力の設定（PHONES）

RETURN IN 1端子およびREUTREN IN 2端子に接続した機器からの入力信号とPHONES IN端子からの入力信号をアナログミックスしたものがPHONES端子より出力されます。
このときの音量は、PHONESつまみで調節できます。
L MONOキーまたはR MONOキーでLチャンネルまたはRチャンネルのモノラル信号を選択できます。
L MONOキーとR MONOキーの両方をオンにした場合は、Lチャンネル信号とRチャンネル信号がミックスされたものがモノラルで出力されます。

第 7 章　仕様

定格

入力定格

アナログ入力

LINE IN端子

バランス

コネクター：XLR-3-31（1：GND、2：HOT、3：COLD）
規定入力レベル：HS-P82本体の設定による
最大入力レベル：HS-P82本体の設定による
- LINE OUT 1へスルー出力
- LINE OUT 2へスルー出力
（TALKBACK TO LINE OUT 2スイッチ　OFF時）

RETURN IN端子

バランス

コネクター：XLR-3-31（1：GND、2：HOT、3：COLD）
入力インピーダンス：10kΩ
規定入力レベル：+4dBu（1.23Vrms）
最大入力レベル：+24dBu（12.28Vrms）

PHONES IN端子

コネクター：6.3mm（1/4'）ステレオ標準ジャック

内蔵マイク

無指向性、モノラル

出力定格

アナログ出力

LINE OUT 1端子

バランス

コネクター：XLR-3-32（1：GND、2：HOT、3：COLD）
規定出力レベル：HS-P82本体の設定による
最大出力レベル：HS-P82本体の設定による
- LINE INをスルー出力

LINE OUT 2端子

● TALKBACK TO LINE OUT 2スイッチOFF時

バランス

コネクター：XLR-3-32
（1：GND、2：HOT、3：COLD）
出力インピーダンス：HS-P82本体による
規定出力レベル：HS-P82本体の設定による
最大出力レベル：HS-P82本体の設定による
- LINE INをスルー出力

● TALKBACK TO LINE OUT 2スイッチON時

擬似バランス

出力インピーダンス：150Ω
規定出力レベル：−8dBu（0.3Vrms）
最大出力レベル：+8dBu（2.0Vrms）
- 内蔵マイク入力を出力

PHONES 端子

コネクター：6.3mm（1/4'）ステレオ標準ジャック
最大出力レベル：90mW + 90mW
（1kHz、THD+N 0.1%、32Ω負荷）

コントロール入出力定格

MAIN UNIT端子

コネクター：ミニDINコネクター

KEYBOARD端子

コネクター：ミニDINコネクター（PS/2）

一般

電源電圧

DC5V（HS-P82本体から供給）

消費電力

1W以下

外形寸法

270x 63 x 260mm（幅 x 高さ x 奥行き、突起物を除く）

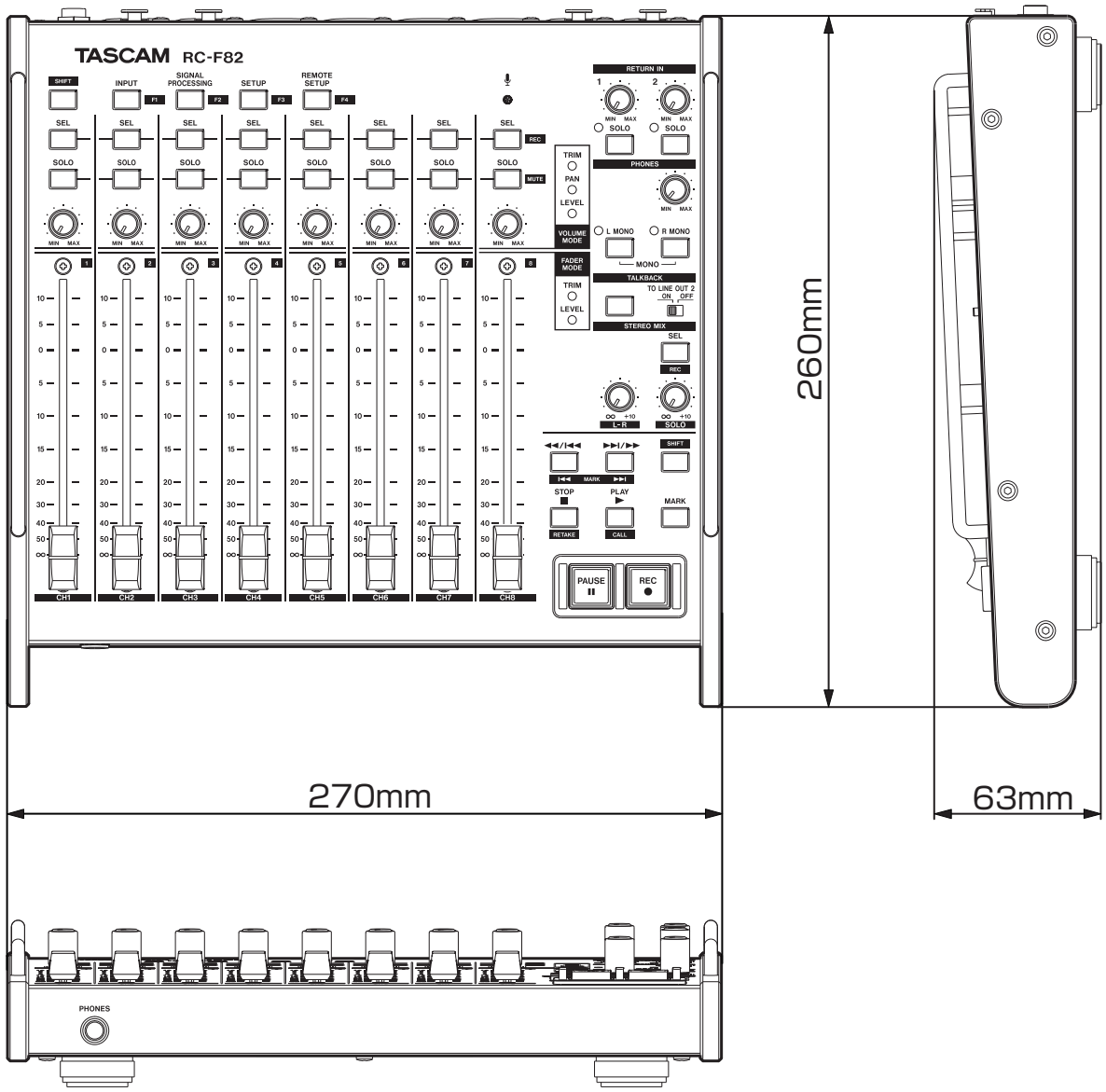
質量

2.5kg

動作温度

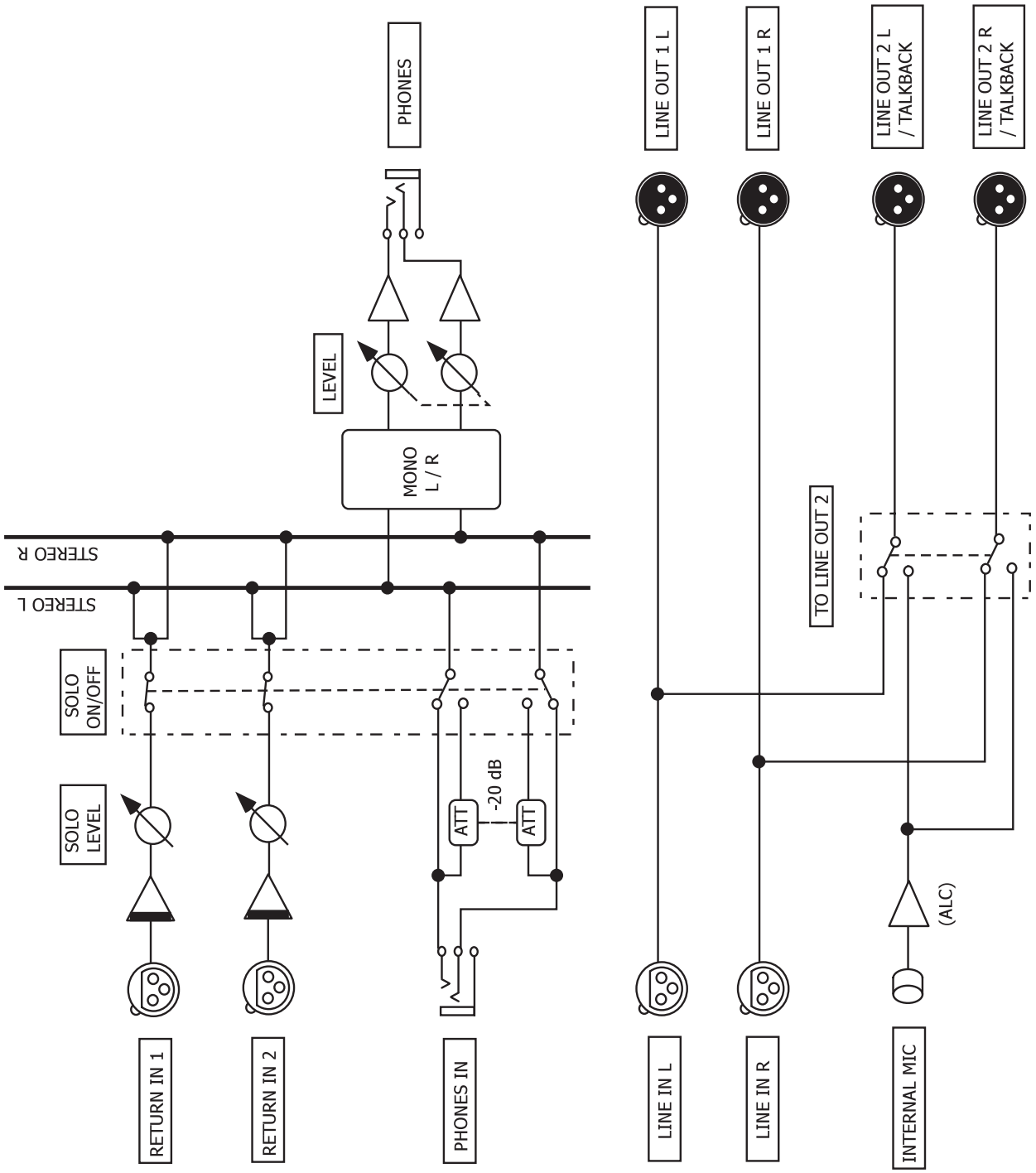
0 ～ 40℃

寸法図



＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ブロックダイヤグラム


PHONES
LEVEL
MONO
L / R
STEREO R
STEREO L
SOLO
ON/OFF
SOLO
LEVEL
ATT
-20 dB
ATT
RETURN IN 1
RETURN IN 2
PHONES IN
LINE OUT 1 L
LINE OUT 1 R
LINE OUT 2 L
/ TALKBACK
LINE OUT 2 R
/ TALKBACK
TO LINE OUT 2
(ALC)
LINE IN L
LINE IN R
INTERNAL MIC

Memo

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00～12:00 ／ 13:00～17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530　東京都多摩市落合 1-47

0120-152-854

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30～17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026　埼玉県入間市小谷田 858

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

市内通話料でOK ナビダイヤル®

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47
http://www.tascam.jp/

Printed in China